



子供たちの素晴らしさに出会って-毎日の小さな行動から-

副校長 武内 伸輔

4月に渋谷区立西原小学校に赴任して参りました、副校長の武内 伸輔です。教職員と力を合わせ、子供たちが安心して、毎日を楽しく過ごせる学校にしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

先日の全校朝会で、私が西原小学校に来て**「この学校の子供たちは素晴らしい」と感じたことの中から、特に心に残った二つを子供たちに話しました。

一つ目は、「挨拶」です。

朝、元気よく「おはようございます」と声をかけてくれる子供がいます。廊下ですれ違うときに、自然にお辞儀をしてくれる子供もたくさんいます。また、全校朝会のはじめの挨拶で、6年生が素早く動き、気持ちのこもった大きな声で挨拶する姿には、毎週のように感心しています。

以前、私が勤務していた学校の先生が、挨拶について次のように話していました。

『「おはよう」の一言からでも、その人の体調や心の子が分かることがある。そこから、さまざまな会話のきっかけが生まれる。いつも挨拶をしている人がしないと、「何かあったのかな」と気に掛かることもある。挨拶は、コミュニケーションのきっかけであると同時に、相手の様子を知る大切な手がかりなのです。』

挨拶は、その人の印象や心身の状態、さらには、その人が所属する集団の印象まで表す大切なものです。そして、相手に「あなたを大切に思っています」と伝える第一歩でもあります。西原小学校の子供たちが、相手を思いやりながら健やかに学校生活を送っていることが、挨拶の姿からよく伝わってきました。



二つ目は、「靴箱の靴がきちんとそろっていること」です。

朝、子供たちの登校前に校舎内を歩いていると、玄関の靴箱には、上履きがかかとをそろえて入れられていることが多く、とても気持ちがよいです。

全校朝会では靴箱のことを紹介しましたが、各教室前の廊下を見ると、上履き袋や体育着袋もフックにきちんとかけられており、掛け直すことがほとんどありません。

「靴をそろえる」「物を元の場所に戻す」といった小さな行動の中には、物を大切にする心や、みんなできちよく生活しようとする思いが表れています。私は毎朝、「このように丁寧な行動ができる子供たちと、今日も一日頑張ろう」と感じながら校舎を歩いています。

先日の保護者会では、校長より、本校の教育目標をより具体的で子供主体のものにするため、今年度から次の副題を付けたことをお話しました。

◎実行する子ども（自分で未来の学校を創ろう 学ぼう 行動しよう）

◎思いやりのある子ども（一人ひとりのちがいを尊重して 自分や相手を大切にしよう）

◎健康な子ども（体も心も大切に 元気に生活しよう）

今できていることを大切に続けながら、「もっとよくするにはどうしたらよいただろう」と考え、自分や友達の良さを、さらに伸ばして欲しいと思います。

その積み重ねが、副題にある「自分で未来の学校を創ること」や「一人ひとりのちがいを尊重し、自分や相手を大切にすること」につながっていきます。

小さな積み重ねが、子供たちの大きな成長につながるよう、教職員一同取り組んでまいります。

保護者・地域の皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。